



ひえだ

神戸市立稗田小学校

平成31年2月1日

「よい聞き手」となるために

「一を聞いて十を知る」「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」など、「聞く」ことの大切さを教えてくれることわざや故事成語等はいくつもあります。

「一を聞いて十を知る」とは、「物事の一部を聞いただけで、全体を理解する」という意味です。この場合の「聞く」には、話し手の意図を感じる「心」が必要です。また、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」は、「知らないことを恥ずかしがったり、知ったかぶりをしたりせずに、素直に聞いて学ぶべき」という教えです。この場合の「聞く」でも、自分は何も知らないことを知り、他者から謙虚に学ぼうとする「心」が必要です。

人は心で「聞く」と、自分の考えが広がったり、相手のことをより深く知ることができたりと、成長することができます。特に、子供たちは、以下のことを学びます。

- ① 相手の話の内容を掴んで感想をもつこと
- ② 相手が伝えたいことを掴むために質問をすること
- ③ 相手の意図をふまえて内容を捉え、聞いたことに対する自分の考えをまとめること
- ④ お互いの共通点や相違点を知り、自分の考えを広げること
- ⑤ 相手の話を最後まで黙って聞くこと・相槌を打ったり、頷いたりしながら聞くこと

上記は、学習指導要領で示されており、人間関係を構築する上で、お互いの立場や考えを尊重し合える「コミュニケーション能力」の基礎となる力です。人工知能がどれだけ進化し、思考できるようになったとしても、他者と協働して課題を解決していくことで新たな価値を生むことができるのは、人間の大きな強みです。他者との協働には、コミュニケーションは不可欠で、「心」で伝え合う力を身に付ける必要があります。

「よい聞き手」は、上手な話し手を育てると言われています。なぜなら、人は、自分の話を聞いてもらおうと嬉しいもので、「よい聞き手」に対する安心感が話を弾ませるからです。時に親身になり、時に感動し、時に共感して聞く「よい聞き手」となることは、信頼関係を築く第一歩となります。

稗田っ子のひとりひとりが「よい聞き手」となり、お互いのよさを認め合えるよう、職員一同、これからも指導を続けていきたいと思えます。まずは、職員が、子供たちや保護者の皆様、地域の皆様と積極的にコミュニケーションを図り、「よい聞き手」の手本を示していけるよう、学び続けていきたいと思えます。

教頭 高原 純恵

